

総務グループのアップ UP 通信 3月号 Vol.101

2020/2/25

アジアを中心に新型コロナウイルス、アメリカではインフルエンザが猛威をふるっています。現在のような状況は、2009年の新型インフルエンザの流行時にも起こっていました。今回は当時のことを振り返りながら、「パンデミック」について考えてみました。



パンデミック - 英 : pandemic -

感染症が複数の地域や国にまたがって**世界的に流行**すること。警戒期などを経て、パンデミックと認定する。

2009年新型インフルエンザ・パンデミック

4月初旬：南米で若年層を中心に感染が拡大。

従来のインフルエンザと比べると死亡数が高く、世界に緊迫感が走った。

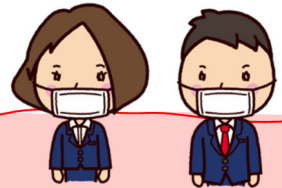
4月23日：世界保健機構(WHO)が「**国際緊急事態**」を宣言

「国際緊急事態」宣言とは

正式名称を「**国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)**」といい、2005年に制定。大規模な疾病発生のうち、**国際的な対応を特に必要とするものを指定**することが出来る警告のこと。2014年エボラ出血熱や2015年ジカ熱等が指定された。今回の新型コロナウイルスも指定済み。

5月初旬：新型インフルエンザ 日本上陸

5月18日：三菱東京UFJ銀行 三宮支店 行員が感染との発表



社内で感染者が… 接客サービスはどうあるべきなのか

三菱東京UFJ銀行 三宮支店に勤務する20歳代の女性行員が新型インフルエンザに感染。感染拡大を防ぐため、三宮支店と同じビル内にある**三宮支社の行員計約70人全員を自宅待機**させた。その上で**周辺の支店などから行員30人を派遣**し、営業を続けた。対応窓口や外回り業務を減らし、ATMコーナーなどを消毒して稼働させた。

当時このような全社員自宅待機は画期的であったといい、即日の対応が功を奏したケースと言える。

こういった「災害などの緊急事態が発生したときに、企業が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画」を**事業継続計画(BCP)**といい、特に緊急時の初動計画に注力することが多い。

6月：WHOが **パンデミック宣言** (1地域内で2か国+別の地域 1か国以上で爆発的な感染の発生が目安)

翌年8月：WHOが新型インフルエンザのパンデミック終息宣言

しかし宣言の基準は越えているものの、重症度や致死率の観点と、宣言に対し企業との癒着があったとの疑惑から、**パンデミック宣言を出すほどではなかった**と非難が起こり、宣言に至る体制を見直すことになったそうです。

新型コロナウイルスをパンデミックにしないために

パンデミックは致死率が基準ではなく、国中や他地域への広がり重視されます。感染者の4割が死亡したエボラ出血熱やアジアでのみ爆発感染したSARSですらパンデミックとは宣言されていません。パンデミック危機は予測されていますが、WHOは非常に慎重に現状を観察・判断し不要な緊張感を煽らないようにしています。

そういった中で、私たちにできることは「**あせらない**」「**情報を得る**」「**やれることをやる**」ということです。誇張した情報やデマに踊らされず、手洗いうがいやマスクエチケットをきちんと行いましょう。栄養バランスのいい食事や良質な睡眠をとることで、体調を整え免疫力を上げることも大切です。また、買い占めのような一人よがりの対策ではなく、**社会全体で予防していく**ことが感染拡大を防ぐ大きな力となります。